

U.S. Indicators

発表日: 2023年12月5日(火)

米国 長期化する製造業の調整(11月ISM製造業指数)

～製造業の調整長期化を受け雇用減少へ～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治(Tel:050-5474-7493)

23年11月のISM製造業景気指数(季節調整値)は、46.7(前月46.7)と前月と同水準にとどまり、市場予想中央値47.8(筆者予想48.0)を下回った。米自動車メーカーのスト終了を受け輸送機器が持ち直したが、需要縮小を背景に製造業全体の調整ペースは改善しなかった。また、縮小した業種が18業種中13業種(前月11業種)に増加した。

ISM製造業景気指数は、世界経済の減速を背景に、拡大縮小の分岐点である50を13ヵ月連続で下回っており、調整期間がITバブル崩壊後に記録した18ヵ月に迫っている。ただし、底堅い国内需要等を背景に当時よりも落ち込みが小さく、製造業は深刻な調整を回避している。

11月の構成項目別の変化では、新規受注、在庫が上昇した一方、生産、入荷遅延、雇用が低下した。構成項目別の総合指数への寄与度をみると、新規受注が前月比+0.56%pt、在庫が前月比+0.30%ptの押し上げ寄与となった一方、生産が前月比▲0.38%pt、入荷遅延が前月比▲0.30%pt、雇用が前月比▲0.20%ptの押し下げ寄与となった。

新規受注、在庫が需要の鈍化や景気の先行き懸念を背景に50を下回り続けているほか、入荷遅延は供給制約の改善や需要の鈍化によって50を下回っている。このようなもと、雇用が水準を切り下げており、これまで調整を回避してきた製造業雇用の減少が示唆された。雇用の縮小した業種数は、18業種中9業種(前月10業種)と減少した一方、拡大した業種は、食品・飲料・タバコ、輸送機器、化学の3業種(前月4業種)にとどまった。需要の鈍化や受注残の減少によって、生産が4ヵ月ぶりに50を下回った。

サブ項目では、輸出受注DIが46.0(前月49.4)と低下し、輸出の減少幅拡大を示した一方、輸入DIが46.2(前月47.9)と低下し、輸入の減少幅拡大を示した。

インフレの動向を示す仕入価格指数は、49.9(前月45.1)と50付近まで上昇しており、財価格の下落に歯止めがかかりつつあることが示唆された。商品別では、アルミニウム、段ボール箱、鉄鋼製品、原油、ディーゼル等が下落した一方、天然ガス、スチール、電子部品等が上昇した。供給不足品では、引き続き電気部品、電子部品のほか、電気機器、半導体などが挙げられた。

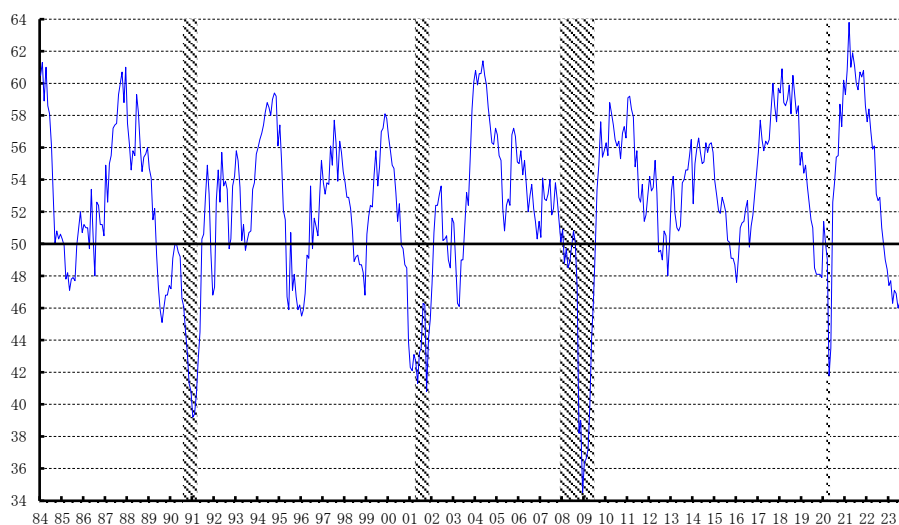
ISM製造業景気指数

	総合	新規受注	生産	雇用	在庫	入荷遅延	受注残	仕入価格	輸出受注	輸入
23/01	47.4	42.5	48.0	50.6	50.2	45.6	43.4	44.5	49.4	47.8
23/02	47.7	47.0	47.3	49.1	50.1	45.2	45.1	51.3	49.9	49.9
23/03	46.3	44.3	47.8	46.9	47.5	44.8	43.9	49.2	47.6	47.9
23/04	47.1	45.7	48.9	50.2	46.3	44.6	43.1	53.2	49.8	49.9
23/05	46.9	42.6	51.1	51.4	45.8	43.5	37.5	44.2	50.0	47.3
23/06	46.0	45.6	46.7	48.1	44.0	45.7	38.7	41.8	47.3	49.3
23/07	46.4	47.3	48.3	44.4	46.1	46.1	42.8	42.6	46.2	49.6
23/08	47.6	46.8	50.0	48.5	44.0	48.6	44.1	48.4	46.5	48.0
23/09	49.0	49.2	52.5	51.2	45.8	46.4	42.4	43.8	47.4	48.2
23/10	46.7	45.5	50.4	46.8	43.3	47.7	42.2	45.1	49.4	47.9
23/11	46.7	48.3	48.5	45.8	44.8	46.2	39.3	49.9	46.0	46.2

11月は、全18業種のうち食品・飲料・タバコ、非鉄、輸送機器の3業種の拡大にとどまった（10月2業種；下線は拡大・縮小が2カ月以上続いたことを示す）。主要6業種では、食品・飲料・タバコ、輸送機器の2業種だけ成長した。一方、縮小した業種は、紙製品、印刷・関連サポート活動、電気設備・部品、コンピューター・電子機器、アパレル・皮革製品、繊維、一般機械、一次金属、家具・同関連、その他製造業、化学製品、加工金属、木材製品、プラスチック・ゴム製品の14業種と10月の13業種から増加した。石油・石炭は前月と変わらずとなった。

先行きに関して、金利の大幅な上昇による需要鈍化の一方、米自動車メーカーでのスト終了を受けた生産回復が期待できるほか、在庫調整の進展を背景に、製造業部門は徐々に調整幅を縮小すると予想される。

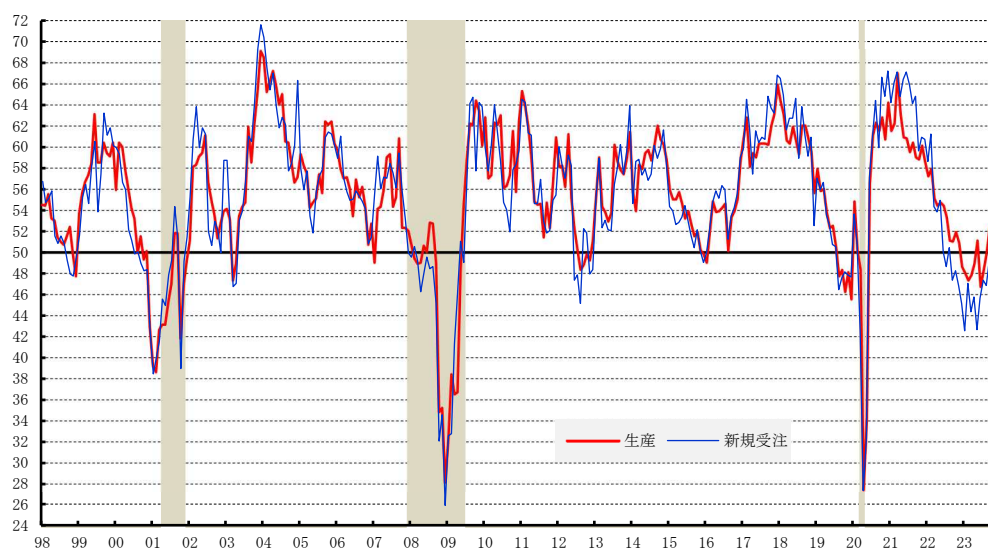
ISM製造業景気指数の推移



(出所) ISM

(注) シャド一部は景気後退期。

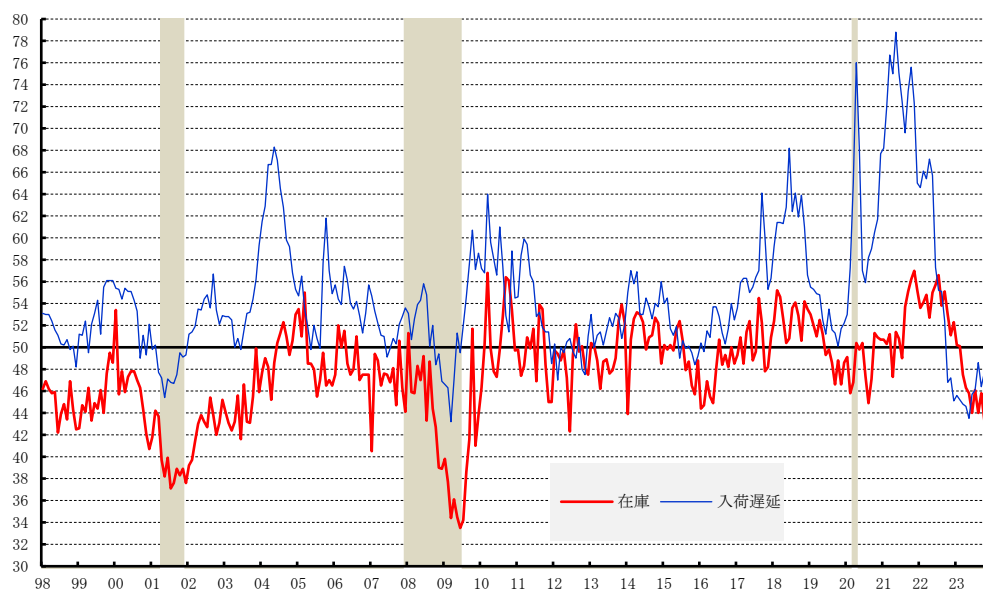
ISM景気指数の推移



(出所) ISM

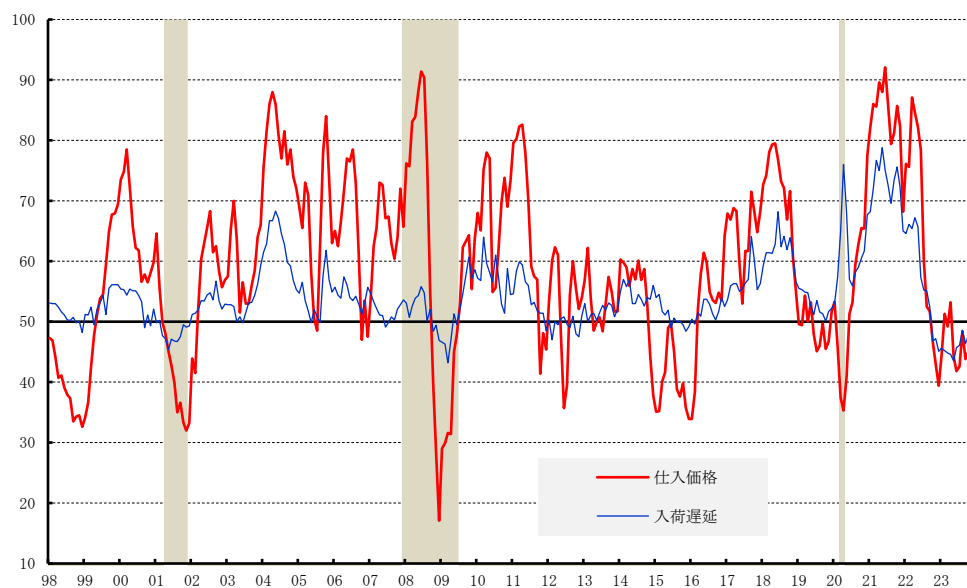
(注) シャド一部は景気後退期

ISM景気指数の推移



(出所) ISM (注) シャドー部は景気後退期

ISM景気指数の推移



(出所) ISM (注) シャドー部は景気後退期

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

